

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590800035		
法人名	株式会社 大木産業		
事業所名	グループホーム稲穂		
所在地	宮崎県西都市大字南方3372番地7		
自己評価作成日	令和3年8月24日	評価結果市町村受理日	令和3年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和3年9月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居されておられる方の想い出来るだけ沿いながら毎日を穏やかに過ごして頂ける様に取り組みを行っています。  
 ・できること、できないことを見極め、利用者様に合わせた自立支援を取り組ませて頂いています。  
 ・隣接のデイサービスと合同で行事を行っているが、コロナのため現在は実施できていない。(コロナ終息後に再開予定)  
 ・施設の周りは田んぼや山に囲まれてゆったりとした時間が流れている。6月以降は用水路に鯉や鯰が上がってきており毎年ベランダから探すのが日課となっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは田んぼや山に囲まれた自然豊かな静かな環境の中に位置している。ホーム内は生活音が聞かれ日々の生活感が溢れるホームである。研修にも力を入れており、職場環境も良く職員間の連携が十分にとれておりケアの質向上も図れている。利用者一人ひとりを良く理解し、思いに寄り添えるよう真摯に取り組んでいるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念をホールと休憩室に掲示を行っている。新しい職員が入社した際は必ず伝える様になっている。また7月の実践者研修参加の際、自施設での課題を実施した際に確認を行っている。時間の経過とともに忘れていくため定期的に実践に生かしているか確認できる場を職員会議の中で作りたい。	利用者に対する事業者のあるべき姿と、地域密着型の意義を運営理念としている。更に理念に基づくケアのあり方を、ケア理念として掲げ、職員全員で共有し実践に努めると共に、振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	訪問でのレクリエーションの受け入れや地区行事等がコロナ禍にて殆ど延期や中止されており参加したくてもできない状況である。終息後は積極的に交流をしていきたいと思っている。	事業所は地区自治会に加入はしていないが、運営推進員の区長や民生委員から地域の情報を把握して、地域の行事への参加や地域住民の受け入れをしているが、現在はコロナ禍で交流を中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前回同様に地域住民の方々に向けた活動は行っていない。ケアマネージャーとは地域のためになれる事ができないかを検討を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での活動報告、入居者の情報の報告を行い意見やアドバイスが頂けており、その後施設内で情報共有の為に回覧を行っている。またアドバイスにもとに改善に取り組んでいる。	会議には、区長、民生委員、消防署、警察署駐在員、後見人や家族等が参加し、幅広い意見が出されている。会議録は、職員の回覧及び欠席した推進員や家族へ配布し共有を図っている。ハザードマップを基に課題への助言や、地域の情報を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談に乗って頂き、アドバイスを頂いたり指示を仰いだり情報交換をさせて頂いている。	日常的に市担当者との連携、関係の構築が図られている。事業所だけでは困難な事例や、家族の問題等を相談し解決に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	R2年度は外部での研修に参加し、その職員を講師に年に2回施設内で研修を行っている。R3年度はコロナ禍の為研修も延期・中止のため施設内での研修を予定している。	管理者や外部研修参加者からの伝達研修など職員研修を継続し、指定基準となる行為が無い事を職員全員で確認している。また、スピーチロック、ドラッグロックについて理解し拘束のないケアに取り組んでいる。	

宮崎県西都市 グループホーム「稲穂」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	R2年度は研修を通して全員で虐待はしないとの意識づけができています。また職員間にて話し合いを行い意識づけを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されておられる方がいらっしゃるが、職員全員が研修を行っているわけではないため、関連した話題が出た際には伝える様にしている。今後は勉強会などに参加を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を取り交わす際、分かりやすい様に説明を行い、不安や疑問がないか、普段でも分からないことや不安なことがあれば遠慮なく聞いて頂けるよう心がけている。管理者が交代して間もない為信頼関係構築できる様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	請求書送付の際に現在の状態をお手紙にして郵送させていただいている。面会等の際にできるだけご家族と話せる機会を作り、要望などを聞き出し現場でのケアに反映できる様情報共有を行っている。	コロナ禍で事業所及び利用者も直接、家族との面会が困難となった。家族の意見や要望も取り入れ、面会を居室外側からガラス越しに行う事や事業所の携帯電話(ライン)を使いビデオ通話を実施している。また定期的に現在の状態を文書で送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員と話す機会を作り意見や提案を聞ける環境を整えており、共有を行っている。代表者への意見や要望は代表者より直接返答をして頂いている。	定期の職員会議に、感染対策のため全員の参加が困難となっているので、会議録の供覧により全員が内容の共有と理解に努めている。少数で四季を楽しめる公園で降車しないドライブは職員の意見で実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段の会話の中から職員の勤務に対するの要望を聞き取り、環境や条件の整備を行っている。現在育児中の職員は15時、16時までや土日祝日の勤務免除で両立し働きやすい様に努めている。各職員目標を見つけ今の仕事にやりがいを見いだせる様に心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場と一緒にすることで各々のスキルやケアの方法を把握し、最適なタイミングでアドバイスできるように心がけている。また施設外での研修を受ける機会を設けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入しているが交流会、研修も延期・中止となっている。実践者研修にて他施設の方との名刺交換を行い意見交換、今後の関係構築出来るようなやり取りを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族からの入居前に要望や不安事項の聞き取りや関係機関からの聞き取りを実施している。入居後は信頼関係を作っていけるように適度な距離感とご利用者様に合わせた支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と綿密な打ち合わせを行い不安を少しでも解消できるように心がけている。また施設内での生活の報告を密に行うようにしている。現在は面会ができないためオンライン面会でのやり取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族へ状態等が変化した場合は報告を行い、ケアマネや職員と話し合いご本人様の同意を得たうえでご家族へ提案という方法で他のサービス機関への紹介や連絡、調整など行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものたたみや、お掃除、台拭き、調理などのできることは一緒に取り組んでいる。生活の中でお互いの役割を見出すことで家族的な関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診等でゆっくりとご家族と話せる機会があった際にはご家族の思いや気持ちをお聞きしている。意見を持ち帰り、しっかりと受け止め、利用者ご本人のみを支えるのではなくご家族含めて支援していけるようにケアマネや現場スタッフに報告を行い全員で考え実施していける様な体制をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の希望があればできるだけ利用できるにはしていたが、コロナの関係で現在は行えていない。	コロナ禍であり外出しての面談や馴染みの場所への訪問は支援できない現状である。その中で、配偶者や親族の逝去があり、利用者及び家族の希望が強く感染対策を徹底する対応を家族の協力が得れることで、葬儀に参加することができた例もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に席替え等を行い、利用者全員が馴染みの関係を構築できるように配慮を行っている。また各々の性格や個性を職員全体で把握し、よりよい関係が作れるように職員がフォローをしながら支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方のご家族へ電話などで様子伺いを行っている。また相談を受けたりもしており支援できることに務めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿った暮らしの中で支援ができるように毎日の会話の中からヒントを得ながら職員間で情報を共有し支援に生かしている。	利用者のかつての暮らしぶりや趣味などの情報を話題にし、希望等を把握するよう、職員間での情報の共有を図り、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や、さりげなく毎日の会話の中から情報を集めながらご家族へお聞きしたりしながら普段のケアに生かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りをしっかりと行い、利用者各々のその日の状態を把握出来るようにしているまたケアの中に生かせるようにスタッフ同士で話し合いを行うこともある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族やスタッフからの聞き取りを行ったのち、いつでも職員が閲覧、確認出来るようにプランを書面にて共有し、必要時更新を行ってケアのずれがないように努めている。	介護支援専門員が本人・家族、職員などの意見を収集し、介護計画を作成している。職員の勤務形態や全員参加型の会議が困難な状況下で、課題であった職員の周知のために、計画表を回覧し確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用し小さな事柄でもしっかりと情報伝達を行い、その日のケアに生かし、記録へ記入を行っている。またその記録を基に介護計画の見直しを敵的に行っている。		

宮崎県西都市 グループホーム「稲穂」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、病院受診や同行、お買い物の代行、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩の際に地域の方々に挨拶を行ったり、声掛けを頂いていたが、現在はコロナ禍にて散歩も施設内にとどめている為機会は減ってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人状態を考慮しながら適切なタイミングでご家族へ提案を行っている。その際にはご家族から意向を聞き取りながら、納得し同意いただければ変更させて頂き適切な医療が受けられるような支援をさせて頂いている。協力医には月一での往診、訪問看護には週1回の訪問を頂いており連携もしっかりととれている。	協力医の往診診療と訪問看護師による経過観察が実施されている。認知症専門医受診には介護職員及び家族が同行し具体的に症状や状態の説明を行っている。インフルエンザ予防接種は往診にて、コロナワクチン接種は協力医療機関で実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師が夜勤を含めて6名在籍しており、バイタルや排泄確認などを基に日々の状態を把握してアドバイスをもらったり相談に乗ってもらっている。また訪問看護や		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報の伝達を行い、入院期間や治療の内容など情報収集を行っている。また少しでも入院期間中のケアがスムーズになるように話し合いを行っているが現在はコロナ禍の為最低限の聞き取りであとは文章でのやり取りを行っている。また入院中も連絡を取り状態を確認を行い施設として出来ることの支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される際にご家族へしっかりと説明を行い納得を頂いている。早い段階での聞き取りを行いその時の状況に応じて、訪問看護や主治医、ご家族と話し合いを行い関係機関と連携を取りながら終末期を安心して迎えられるように支援していくつもりである。	入所時や心身の状態変化時など都度つど文書で説明し、その時点での利用者、家族の意向を確認し同意を得ている。現在は利用者の状態や家族の意向などにより終末期の対応は行っていないが、希望があれば主治医、訪問看護ステーションと連携し対応できる体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	R2に消防に依頼を行い救命救急の研修を行ったが、定期的には実施できていない。施設内での研修を行い研修で教わったことを忘れないよう努めていきたい。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しているが、地元住民や消防団の参加は出来ていない。施設内にハザードマップを設置し、緊急時の対応をスタッフで協議を行っている。	消防法による年2回の火災時の避難訓練は実施している。ハザードマップで洪水浸水2メートルのため、数年前に介護老人保健施設と避難先を協定したが、大型台風接近で高齢者の避難勧告発令時に調整不十分で避難できなかった。	近年の線状降水帯による洪水等に対し、予防可能な避難行動に必要な介護老人保健施設への避難ルートや避難誘導時のマンパワー等を検討し、訓練を加えた体制の構築に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりにとって誇りやプライバシーの価値観が違うので情報を共有しながら声掛けに務めている。また出来ていない職員へは面談を通して指導を行い全体のスキル向上に努めている。	人格の尊重やプライバシーの保護を理解し対応に努めている。まれに排泄誘導を急がせる時に、声掛けやトイレの消音への配慮に欠ける事があるので、その都度及び全職員にも意識する機会にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や要望を日々の会話の中から聞き取り、小さなことでも自己決定できるように働きかけを行っている。自己決定の難しい場合もご家族や普段の行動や、表情、動きなどで確認を行い了承を頂いてから支援させていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その場面での想いを大事にしながらご本人のペースに合わせて希望に沿った一日が過ごせるように支援をさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性入居者は毎日ヒゲ剃りを行い、ご自身で出来るように支援を行っている。また女性入居者にはご本人が使われていた希望の化粧用品やお気に入りの衣類を必要に応じて購入している。また美容室にもお願いをして髪型も同じにならないように希望を聞いていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの把握を行い、場合によっては別メニューを提供させて頂いている。楽しく食べていただける様に支援を行っている。出来そうな時は、台拭き、下膳、食器洗いなど一緒に行っている。	朝、夕食はホームで、昼食は通所施設厨房で提供している。利用者の嗜好等を把握した職員が献立を作成している。楽しくゆったりと食事をし台拭きや下膳など、できる事を引き出せるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々に合わせた食事量を提供し、定期的に見直しを行っている。食事摂取量、水分摂取量の少ない利用者に対しては摂取できるような形態へ変更を行い、見直しや再検討を行い支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアの際は見守りを行っている。義歯は毎晩洗浄剤を個人の義歯ケースにて使用し洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄のサイクルを確認を行い各々のタイミングに合わせてさりげない声掛けを行っている。失禁等があったとしても自尊心を傷つけないようにケアを行い失禁をさせないように次回ケアに生かしている。おむつ外しに取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し排泄のパターンを把握してトイレでの排泄に取り組み、オムツからリハビリパンツへ排泄状況の改善した例もある。排便には特に留意して自然排便ができる限り行えるようにホームとして取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳、ヨーグルトの提供を提供している。レクリエーションにて体操や歩行訓練、散歩で体を動かし、しっかりと水分を摂っていただいている。また食事にてお野菜の摂取をしっかりといただける様にメニューを考えたり、排泄時の腹圧マッサージを行い自然排便ができるように心がけている。出ない場合は主治医に相談を行い服薬等でのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を聞き、週に3回入浴の予定を組ませていただいている。順番等の希望に沿うようにご本人のペースにて入浴をいただいている。入りたくない時は予定の変更を臨機応変に行い翌日に入っていたりしている。	入浴の順番など利用者の希望に沿うよう対応を行い、入浴拒否傾向の利用者には時間をかけ丁寧に対応し入浴を行っている。最低でも週3回以上の入浴を実施し、一人一人のペースに合わせた入浴時間の対応や可能な時には入浴剤の使用、季節湯の提供を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーション後は自由時間をもうけ休息して頂いたり、TVを見る際は畳の上でごろんと横になって寛いでいただいている。定期的に体を動かすことで気持ちよく寝れるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をスタッフの誰でも見られる場所に置いて、変更や追加になった際は必ずスタッフ全員に伝えるようにしている。また状態が変わった場合は主治医に相談を行い指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることにスポットを当て、台拭きや下膳、洗濯物をたたんで頂いたりしている。またスタッフが掃除を始めるとお手伝いをしてくださる利用者が数名いる。		



宮崎県西都市 グループホーム「稲穂」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナの為に外出はしていないが、昨年度は外部と接触しないような工夫を行い散歩やドライブを行っていた。職員がレクリエーションにて外で撮った写真を見せたり話をしたりしてなるべく施設の中で社会から隔離されないように工夫をしている。コロナ収束したら1つ1つご希望に添えるように取り組む予定である。	コロナ禍で通常の外出は行っていないが、以前は敷地内や近所の神社までの散歩、ドライブ、買い物など一人ひとりの希望を考慮しながら頻回に行っていた。コロナの状況が改善すれば以前のように日常的な外出支援に取り組む意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からご本人が自由に使えるお金を預かっており、希望されれば一緒に買い物やご自身でお買い物に行っていただけに支援していたが、現在はコロナの為に外出は出来ていない。ご希望があれば職員が代行して買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればご家族やお店に電話をして頂いている。また会社携帯にてTV電話もご希望があればしている。個別で携帯を所持されておられる方は、ご自身のペースで連絡を取って頂いている。またご家族から毎日連絡が来ている利用者もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設自体がコンパクトな為、料理の音やにおいが施設の中に入ら聞こえる為生活感を間近で感じられることができる。5感を刺激することで食欲に繋がっている。ホールからの景色は田んぼでの稲作などが年間を通して見られる。またレクリエーションで作った作品を展示している。また居室もご本人のご希望や状態に合わせ環境を整えている。	共用部分の環境美化や日々の温度や採光に配慮している。調理などの生活音が聞こえるが、生活音が利用者への刺激や安心感につながっている。利用者一人ひとりの状態に応じ、配席を定期的に見直し居心地よく過ごせる空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に職員で話し合い、席の場所やテーブルの配置を考え馴染みの関係が継続できるように支援したり、仲良くなれるようにさりげなくスタッフが間に入ったりするように努めている。居室を行き来されている方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使われていた椅子やタンスなどを持ってきて頂き、さらにお花や家族の写真や出掛けた時の写真を飾ることで居室内でも心地よく過ごしていただける様に工夫をしている。またご希望があれば追加で持ち込んで頂いたこともある。	馴染みのある椅子やタンス、家族の写真など持ち込みを基本的に自由としている。テレビを持ち込まれBS放送を視聴したいとの希望にも対応された。利用者の心身の状態により和室をフローリングに変更したり、ベッドの配置を検討するなど居心地よく安全に過ごせるよう配慮している。	

宮崎県西都市 グループホーム「稲穂」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々のできる事、出来ない事を見極め、その場面で最適な補助具を使用することで安全に移動や移乗ができるように支援を行っている。居室やトイレが分かるように表示を行い施設内を安心して1人で移動できるよう環境を整えている。		